



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

れました。享年87。死因は老衰との発表です。

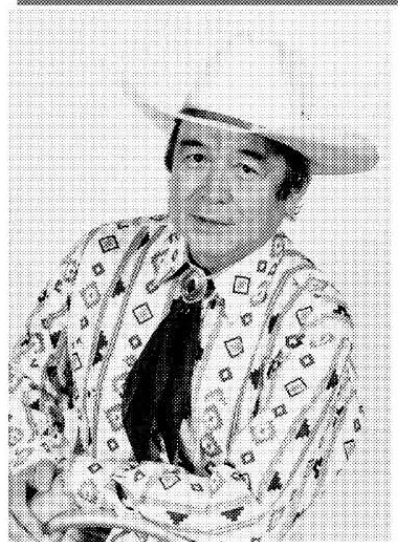
報道によれば、ウイリーさんは2014年に膠原病(こうげん)病と診断され、闘病を続けていたそうです。

膠原病という病名は知っているても、どんな病気か詳しく知らない人のほうが多いと思います。

まず膠原病というのは一つの病気の名前ではありません。皮膚や筋肉、骨、関節など全身に起こる自己免疫疾患の総称です。症状としてはまず発熱、極度の疲労感、筋肉痛や関節のこわばりなどから始まります。精密検査の結果、関節リウマチや全身性エリテマトーデスや皮膚筋炎、ベーチェット病などの診断名がつけられます。「膠原」とは、コラーゲンという線維のことです。膠原病は、体内のコラーゲンが変性することによる慢性疾患です。昨今の研究により様々な物質が関与していることが分かってきましたが、明確な病因は解明されていません。

全身に多彩な症状が続々と出現するのが膠原病の特徴です。あまりにも症状に個人差があるため、各科を転々とするのがよくあります。最終的に膠原病と診断されるまでかなり時間がかかってしまうのが悩ましいところ。先に述べた自覚症状のほかに、皮疹、手指のしびれ、握力の低下、脱毛や口内炎、目や口が異常に乾くなどの症状を訴えてくる患者さんのなかに膠原病を疑う人が必ずいます。治療はステロイド剤を中心とした薬物療法が主体になります。規則正しい日常生活とリハビリやこまめな運動を続けることによって、病気の進行を遅らせることが十分に可能です。

ウイリーさんも、膠原病を発症後、一時は寝たきりになり咀嚼(そしゃく)すら難しかったとのこと。しかし、リハビリによって、2018年の夏には復活コンサートを遂げることができました。あの高らかな歌声を聴けば、コロナ禍で海外旅行ができない今年も、スイスからの風を感じることができそうです。



163 歌手 ウイリー沖山

今や、YouTubeで世界の音楽を楽しめる時代となりましたが、昔、スイス民謡「ヨードル」という音楽を初めて聞いたのは確か、この人がテレビで歌っていたのを見たときでした。男性なのになんでこんなにきれいな高音が出るんやろ? そもそも、「ヨーロッパハイ♪」ってなんやねん? と興味を持った記憶があります。1957年にヨードルの名曲『スイスの娘』の日本語版でレコードデビューし、その抜群の歌唱力から「キング・オブ・ヨードル」と呼ばれ人気を博しました。その後も、ハワイアンやカントリーなど、世界のさまざまな民謡をお茶の間に広めた歌手のウイリー沖山(本名・沖山宇礼雄「うれお」)さんが、6月28日に横浜市内の病院で死去

スイスの風感じる高らかな声